

# そう、道徳は楽しい

「特別の教科 道徳」 アシスト 6



令和4年3月 長野県教育委員会

# 道徳教育によせて

道徳教育とは 道徳教育は、人が一生を通じて追求すべき人格形成の根幹に関わるものであり、同時に、民主的な国家・社会の持続的発展を根底で支えるものです。また、道徳教育を通じて育成される道徳性、とりわけ、内省しつつ物事の本質を考える力や何事にも主体性をもって誠実に向き合う意志や態度、豊かな情操などは、「豊かな心」だけでなく、「確かな学力」や「健やかな体」の基盤ともなり、「生きる力」を育むために極めて重要なものです。

## 道徳教育の目標

他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う

### 「考え、議論する道徳」へ

道徳教育は、児童生徒の人格の基盤となる道徳性を養う重要な役割があることに鑑みれば、本県においても、その充実に取り組んでいく必要があります。指導方法の工夫を図ることなどが求められます。

このことは、「特定の価値観を押し付けたり、主体性をもたず言われるままに行動するよう指導したりすることは、道徳教育が目指す方向の対極にあるものと言わなければならない」、「多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、誠実にそれらの価値に向き合い、道徳としての問題を考え続ける姿勢こそ道徳教育で養うべき基本的資質である」との中央教育審議会答申を踏まえ、発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」へと転換を図るものです。

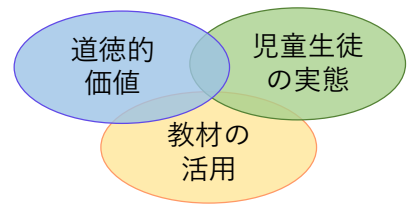
## 夢や希望などを共に語り合う

特に、道徳科の学習では、これまでも実践されてきたように、教師が生徒と共に人間の弱さを見つめ合い、考え合った上で、夢や希望などを共に語り合うような姿勢をもつことが大切になります。

### <アシスト6 もくじ>

- P1 道徳教育によせて
- P2 道徳科の授業構想
- P3 道徳科の主題と学習指導過程
- P4 主体的・対話的で深い学び（「考え、議論する道徳」）の視点からの授業改善
- P5 道徳科の評価について
- P7 生きて働く指導計画の作成
- P9 道徳科の授業におけるICTの活用
- P10 実践事例 A 小学校（令和2年度 長野県道徳教育研究推進校）
- P11 実践事例 C 中学校（令和2年度 長野県道徳教育研究推進校）
- P12 実践事例 E 小学校（令和3年度 長野県道徳教育研究推進校）
- P13 実践事例 G 中学校（令和3年度 長野県道徳教育研究推進校）
- P14 内容項目

※アシスト6は、アシストPlus（電子版）を増訂したものです



## 指導の意図を明確にするために



ねらいとする道徳的価値について、学習指導要領に示された内容項目に基づき、明確な考えをもちます。

- 道徳的価値の意義を理解し、指導の考え方を明確にする。

ねらいとする道徳的価値について、日頃どのような指導を行い、その結果としての児童生徒にどのようなよさや課題があるのか、その上で、本時で学ばせたいことは何かを明らかにします。

- 日頃の教育活動を振り返り、児童生徒の実態を明確にする。

授業者の意図、児童生徒の実態をもとに、教材をどのように活用し、どのような学習を行うのかを明らかにします。

- 指導の意図を明確にした**教材の活用**、学習展開を明確にする。

道徳的価値

児童生徒の実態

教材の活用

本時の道徳科の授業で、道徳性の諸様相のどの様相に焦点を当てることが決まります。

## 道徳性の諸様相

道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり、道徳教育は道徳性を構成する諸様相である道徳的判断力、道徳的心情、道徳的实践意欲と態度を養うことを求めています。

これらの道徳性の諸様相には、特に序列や段階があるということではありません。一人一人の児童生徒が道徳的価値を自覚し、自己の生き方についての考えを深め、日常生活や今後出会うであろう様々な場面、状況において、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるよう**内面的資質**を意味しています。



### 道徳的判断力

それぞれの場面において善悪を判断する能力

### 道徳的心情

道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情

### 道徳的实践意欲

道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働き

### 道徳的態度

道徳的判断力や道徳的心情に裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え

## 道徳科の主題

授業には、ねらいと教材で構成した主題があります。

ねらい

道徳科の内容項目を基に、ねらいとする道徳的価値や道徳性の様相を端的に表したもの



教材

教科用図書やその他、授業において用いる副読本等



主題名

ねらいと教材で構成し、授業の内容が概観できるように端的に表したもの

※主題設定の理由等の記述にあたっては、児童生徒の肯定的な面やそれを更に伸ばしていこうとする観点からの積極的な捉え方を心掛けるようにします。

## 道徳科の学習指導過程

※特に決められた形式はありませんが、一般的には導入、展開、終末の各段階を設定することが広く行われています。

導入

主題に対する児童生徒の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図る段階

- 本時の主題に関わる問題意識をもたせる導入
- 教材の内容に興味や関心をもたせる導入 など

展開

ねらいを達成するための中心となる段階であり、中心的な教材によって、児童生徒一人一人が、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に、自己を見つめる段階

- 児童生徒の実態と教材の特質を押さえた発問などをしながら進める
- 児童生徒がどのような問題意識をもち、どのようなことを中心にして自分との関わりで考えを深めていくのかについて主題が明瞭となった学習を心掛ける

終末

ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして、今後の発展につなぐ段階

- 学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめる
- 学んだことを更に深く心にとどめる
- これからの思いや課題について考える



## 学習指導過程や指導方法の工夫

## 手段



# 主体的・対話的で深い学び

## 「考え、議論する道徳」

- 問題意識をもつ
- 自分との関わりで捉えて考える
- 多面的・多角的に考える
- 自らを振り返る
- 自己の（人間としての）生き方についての考えを深める

## 目的

道徳的な判断力、心情、  
実践意欲と態度を育てる

※特に、次の二つの視点からの授業改善を進めましょう。

### ● 自分との関わりで捉えて考える

読み物教材の登場人物の心情理解にのみに終始せず、「自分だったら…」と自分事として考えることができるようにします。

- (例)
- ・教材の登場人物に自分を置き換えて考える。
  - ・教材の問題点等を自分事として受け止めて考える。
  - ・日常生活や学校生活等を想起しながら考える。

### ● 多面的・多角的に考える

他者と対話したり協働したりしながら、様々な視点から物事を理解する学習を通して、価値理解と同時に人間理解や他者理解を深め、更に自分で考えを深め、判断し、表現する力などを育みます。

#### 価値理解

人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること。

#### 人間理解

道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること。

#### 他者理解

道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということを前提として理解すること。

## 問題解決的な学習の工夫

道徳科における問題とは道徳的価値に根差した問題であり、単なる日常生活の諸事象とは異なります。

### 道徳的な問題（例）

- ① 道徳的価値が実現されていないことに起因する問題
- ② 道徳的価値のことは理解しているが、それを実現しようとする自分とそうできない自分との葛藤から生じる問題
- ③ 複数の道徳的価値の間の対立から生じる問題 など

問題解決的な学習では、教師と児童生徒、児童生徒相互の話合いが十分に行われることが大切です。

## 道徳的行為に関する体験的な学習等を取り入れる工夫

自分との関わりで多面的・多角的に考えるために、道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れることが考えられます。

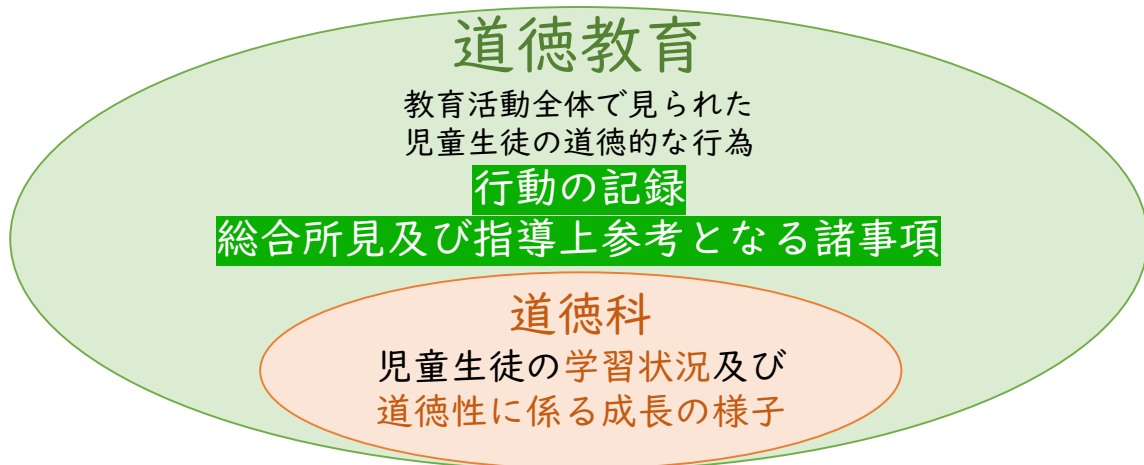
- ① 実際に挨拶や丁寧な言葉遣いなど具体的な道徳的行為を通して、礼儀のよさや作法の難しさなどを考える。
- ② 教材に登場する人物等の言動を即興的に演技して考える役割演技など、疑似体験的な表現活動を取り入れた学習。



# 道徳科の評価について

## 1. 道徳教育と道徳科の評価

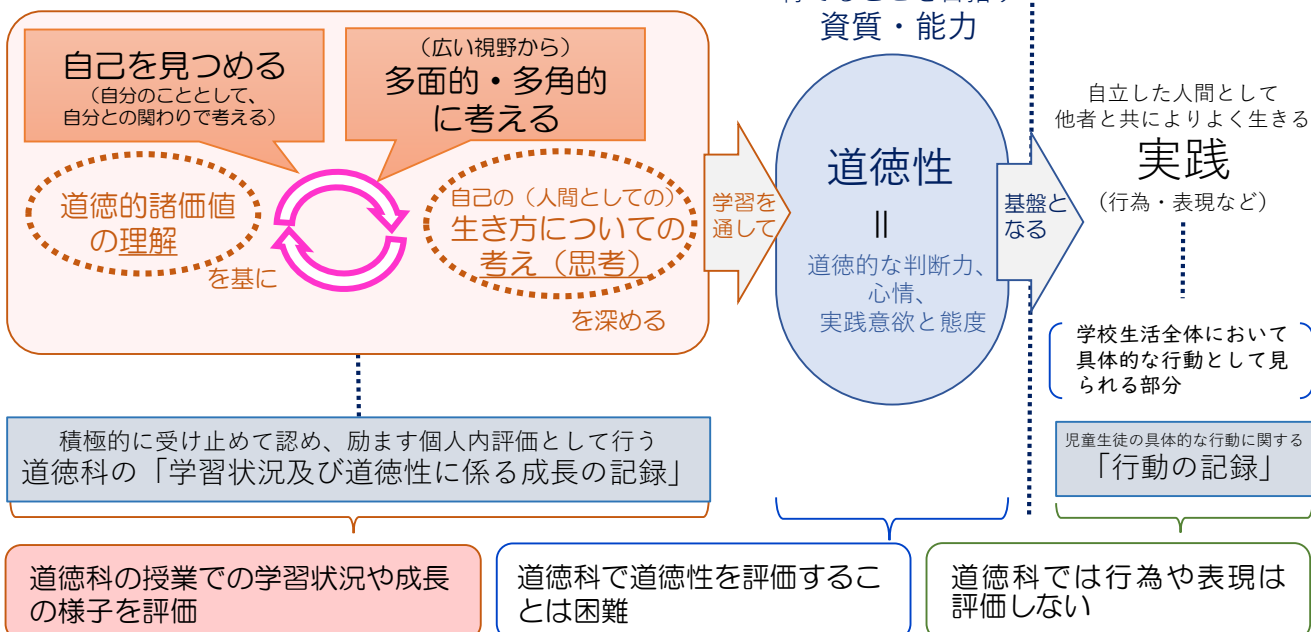
評価の公的な文書である「指導要録」の場合



- 教育活動全体で見られた児童生徒の道徳的行為についての評価は指導要録の「行動の記録」や「総合所見及び指導上参考となる諸事項」へ記入。
- 授業における児童生徒の学習状況及び道徳性に係る成長の様子についての評価は指導要録の「特別の教科 道徳」へ記入。

## 2. 道徳科の学習活動と評価のイメージ

### 道徳性を養うために行う道徳科における学習



注) 道徳科の学習活動を中心にイメージ図としたものであり、これ以外にも道徳性を養う過程は様々なものが考えられる

参考資料：「令和3年度道徳教育推進研修（NITSオンライン研修）」  
文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見哲也氏 講義資料  
「平成29年度道徳教育指導者養成研修（中央指導者研修）」  
文部科学省初等中等教育局 主任学校教育官 小野賢志氏 講義資料

### 3. 道徳科における評価の視点

道徳的諸価値についての理解を基に

(1) 子供が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか。

(2) 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。

自己の（人間としての）生き方について考えを深める。

評価に当たっては、道徳科の学習活動に着目し、上記の(1) (2)の点を重視することが重要です。



### 4. 道徳科において、子供の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取り、評価に活用するための工夫

1単位時間の授業での子供の発言や感想文、質問紙の記述等から見取る例

◆一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか

(例) Gさんは、本当の親切とはどのようなことかを自分の立場と相手の立場を比べながら考えていた。

◆道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか

(例) Hさんは、教材のお話と身近な祖父の死を重ね、生命は唯一無二のかけがえのないものであることを実感していた。



子供の学びを見取り、評価に活用するための具体的な工夫として、例えば、上記のように、子供の学習の過程や成果などの記録を計画的に蓄積していくことが考えられます。

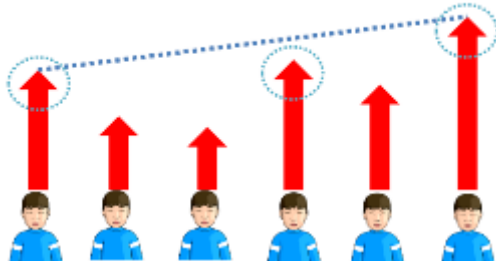
### 5. 大きくくりなまとまりを踏まえた個人内評価

学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握

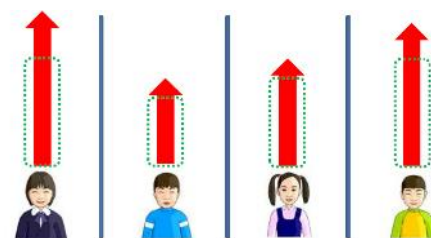
成長を受け止めて認め、励ます個人内評価

第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回

道徳科の授業のねらい



学習状況を時間的に縦に並べて、進歩の状況を認める



他者との比較ではなく、子供の学びの姿を把握する

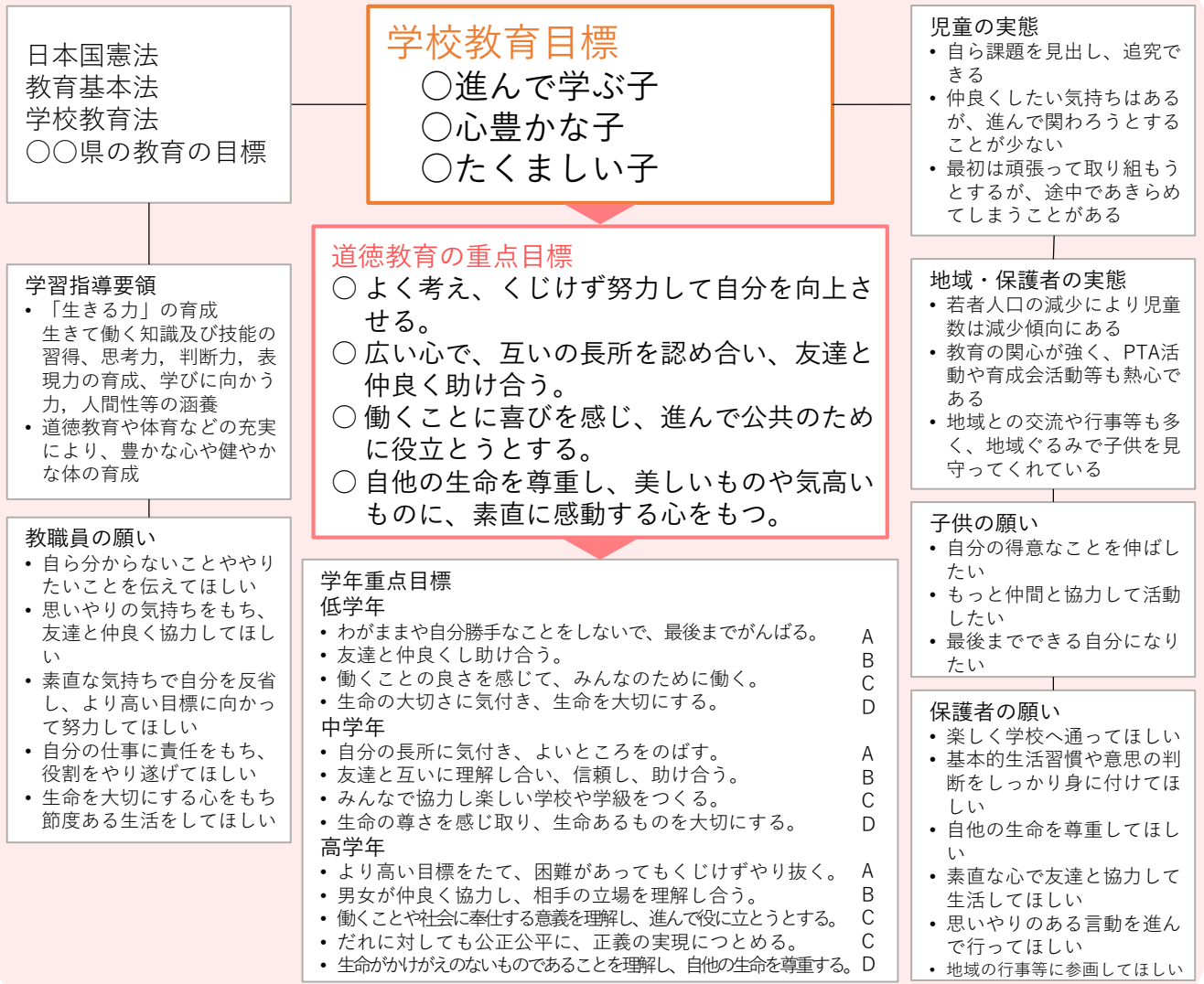
年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で、子供の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握します。そして、他者との比較ではなく、子供がいかにか成長したかを積極的に認め、励ます個人内評価として記述式で行います。



自校の道徳科を道徳教育の要とするために...

道徳教育の全体計画等の見直し

- ①道徳教育で育てたい子供像を明確にする  
→道徳教育の重点目標を設定する
- ②各学年の重点目標、内容項目の重点を設定する
- ③道徳科の指導方針を明確にする



道徳教育推進教師の役割

～全体計画の見直し～

校長先生の方針の下、道徳教育推進教師が中心となって全体計画の見直しを適宜行い、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の指導を充実させていきましょう。





# 道徳教育の重点目標を具体化するために...

## 重点的な指導ができるように工夫する

- (1) 各教科等と内容項目のつながりを明確にする
- (2) 特色ある教育活動や豊かな体験活動との関連を図る
- (3) 重点的に指導しようとする内容項目の指導時間数を増やす
  - ・一定の期間をおいて繰り返し取り上げる
  - ・何回かに分けて指導するなど
- (4) 一つの主題を2単位時間にわたって指導する

【道徳教育  
全体計画 別葉】

【道徳科  
年間指導計画】

### 【道徳教育全体計画 別葉の例】

内容項目	国語	算数	...	学校行事	...
...			...		...
礼儀	お願いやお礼の手紙を書こう (10月)			入学式 (4月) 卒業式 (3月)	
...			...		...
規則の尊重	図書館へ行こう (6月)	折れ線グラフと数角の大きさ (11月)		運動会 (5月) 校外学習 (9月)	
...			...		...

### 【道徳科年間指導計画 主題配列の工夫の例】

学期	月	週	回	主題名	内容項目	教材名 (教科書以外の出典)	備考
1 学期	4 月	1	1	一日の始まり	B 礼儀	〇〇〇〇〇	二つの教材を用いて、連続する2時間で組む
		2	2	安全な生活	A 節度、節制	〇〇〇〇〇	
		3	3	きまり何のために	C 規則の尊重	〇〇〇〇〇	
	5 月	1	4	権利と義務	C 規則の尊重	〇〇〇〇〇 (●●資料集)	短い期間の中に、2回組む
		2	5	自他の生命の尊重	D 生命の尊さ	〇〇〇〇〇 (「私たちの道徳」文科省)	
		3	6	まごころの形	B 礼儀	〇〇〇〇〇	
		4	7	長所と短所	A 個性の伸長	〇〇〇〇〇	

### 道徳教育推進教師の役割

### ～年間指導計画等の作成～

道徳教育の全体計画に基づく道徳科の年間指導計画等を作成すると、計画的、発展的な指導が可能となります。



参考資料：「令和3年度道徳教育推進研修 (NITSオンライン研修)」

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 浅見哲也氏 講義資料



# 「考え、議論する道徳」への転換を図る

A小学校の取組  
授業者 B 先生

no image

答えが一つではない道徳的な課題を、一人一人の児童が自分自身の問題としてとらえ向き合い、友との関わりを通して、自らを振り返り自己の生き方について考えを深める「考える道徳」「議論する道徳」の授業に向けたA小学校の先生方の挑戦。

## 「考える道徳」「議論する道徳」を目指した授業実践からみてきたこと

実践事例



## B先生の子供の思いに寄り添う「考え、議論する」道徳授業の実践

主題名 友だちのために (内容項目 友情、信頼) 教材名「友の命」

「友だちとの友情を深めるために大切にしたいこと」の問題意識の共有、「どうしてデモンは、『ピシ阿斯君、なぜもう少し遅れなかったのか。ぼくは、君に代わりたかったのに…。』と言ったのだろう」と登場人物の思いに自分を寄せる発問と二人の関係から道徳的価値に迫る問い返し。

デモン

## 「友情、信頼」は双方向の関係

磨き合い、高め合える関係の大切さを二人の姿から考える。

ピシ阿斯

教師：どうしてデモンは「ピシ阿斯君、なぜもう少し遅れなかったのか。ぼくは、君に代わりたかったのに」と言ったのでしょうか。

児童：デモンが自分のために殺されたら、ピシ阿斯は一生罪みたいなものを感じながら生きていかなければいけない。

教師：どうして二人はこんなにも信じ合えたのだろう。

児童：前にも（二人は）お互いに助け合っていた。

児童：大切な友だちだから。

no image



教師が道徳的価値に対する子供の課題を掴み、ねらいとする道徳的価値を教師が理解し、本時に考えたい道徳的価値を子供と共に悩み考え合うことが、子供が自分を見つめ、友とよりよく生きようとする道徳科の授業につながっていくと思います。

no image

# 同一の内容項目の教材を 関連させた道徳授業

C中学校の取組  
授業者 D 先生

no image

同一の内容項目を扱う際、複数の読み物教材にある登場人物の気持ちや葛藤を関連させ、生徒が過去の学びにおける自らの考え方を振り返ることができるようにすることで、道徳的価値の理解をさらに深めていく授業への試み。

実践事例

主題名「自分で考えて行動し、行動に責任をもつ」内容項目：自主、自律、自由と責任  
教材名 本教材①「許せないよね」（「きみがいちばんひかるとき」2年 光村図書）  
関連教材②「カラカラカラ」（「きみがいちばんひかるとき」2年 光村図書）

## 過去の学習を振り返り、その時の自己の考えを振り返る

本教材①をもとに「行動には責任が伴う」ということについて自己と向き合って考えられるようにしたい。そのために、同じ価値を扱った過去の学習②で「自分で考えて行動すること」を想起し、自己の考えを振り返ることができる場を設けたい。

no image

教材①の  
「香織」

自分でよく考えることなく、友を疑う千佳の言葉に安易に同調してしまったことから、友との関係が悪くなってしまった香織の行動について考える。

教材②の  
「達也」

電車の中で転がる缶を拾おうと思ったが、友だちの視線を気にしてしまい行えずにいる達也の葛藤について、その時の自分の考えを確かめる。

達也ができなかったのはちょっとわかる

自分で決めたことでも難しい

## 二人の姿から、道徳的価値を改めて見つめ直す

二つの教材の登場人物の後悔の姿から「行動と責任」について考える。

道徳的な価値が実現されず、こんなつもりじゃなかった「香織」  
実現させることの難しさの葛藤の中で、本当はこうしたかった「達也」

後悔はしたくないけれど、香織の行動に共感はできる

一面的な見方から  
多面的・多角的に考えを発展させる

現実にはとても勇気がいるし、難しいことだと思う

自分で考えて行動し、  
その行動に責任をもつとは  
どういうことなのか



no image

## C中学校の取組から学ぶこと

道徳的価値の理解を、  
自分との関わりの中で深める

no image

香織と達也の気持ちを関連付けて考えることで、自己の学びを振り返りながら、道徳的価値の実現の難しさを今の自分に引き寄せて考え、道徳的価値の理解をさらに深めていました。

C中の取組から、同一内容項目の教材を扱う際、過去の学習での自己の考えを振り返り関連させることによって、道徳的価値についての理解をより深め、自己の考えの変容や成長を実感することにつながっていくことが見えてきます。

# 自分の考えを語ることで できる授業をめざして

E 小学校の取組  
授業者 F 先生

no image

「道徳の授業で、友達の考えを聞きたい」と意識が高まってきている子供たち。一人一人が自分の考えをもち、語りたくなるような授業を目指したい。

主題名 「本当の友情とは」 内容項目：B 友情、信頼  
教材名 「ロレンゾの友達」 （「きみがいちばんひかるとき」6年 光村図書）

実践事例

## 主題に対する興味や関心を高める導入の工夫

事前アンケート「友達ってどんな人」の結果を提示

no image

T：「裏切られても許せる人」というのがあるね。  
どんなときでも許せるのかな？

えっ…？  
それは無理かな…

本当の友情って  
何だろう

アンケート結果をもとに、自己の友達に対する気持ちを確かめられるような問いかけによって、子供たちの主題に対する興味や関心を高めるようにしました。



## 子供たちが語りたくなるための発問の工夫

物事を多面的・多角的に考えるための発問

あなたがロレンゾの友達だったら、三人の誰に一番近い考えをもちますか？

三人の立場や考え方の違いを  
構造的に示した板書



アンドレ：大切な友達だし、つかまえてほしくないから逃がす

サバイユ：自首をしない理由があるなら聞いてあげたい

ニコライ：罪を犯したのなら、かばうことはできない…自分も悪くなる

自己を見つめるための発問

かしの木の下で話合ったことを、ロレンゾに伝えなくてよかったのかな…？

罪を犯していないなら、伝える必要はないかな

裏切ったように思われるかもしれない

罪を犯したということで話していたから、その場の空気が悪くなる

no image

ロレンゾは、自分のために考えた、ということを知ったら嬉しくなるかも

疑ってしまったからごめんねとあやまった方がいいと思う

グループによる話し合い

自己の生き方について考えを深めるための発問

「本当の友情」ってなんだろう

導入での問題意識に立ち返り、自己の生き方について考えを深めようとしています。



## E 小学校の取組から学ぶこと

立場を明確にさせながら話し合いが進むように、板書の工夫をしたり、教師が話し合いをコーディネートしたりすることで、子供は、自分と友達の考えを比べながら考え、語り合っていました。F先生は「なるほど」「それはどうしてなの？」と子供のつぶやきを捉えたり、発言に対して丁寧に応えたりしていました。子供たちの思いを大切にしている先生の姿も、子供が語りたくなるような授業につながっていました。

# 問題意識を引き出すための導入の工夫

G中学校の取組  
授業者 H 先生

no image

生徒が人間としてのよりよい生き方を求め、共に語り、共に考え合うことのできる道徳科を目指すG中学校の先生方。その実現に向け、生徒の問題意識を引き出す導入のあり方について研究を進めました。

実践事例

## 生徒の問題意識から始まる授業にしたい

一方的に進めていたかなあ…

no image

生徒と共に語り、考え合うような授業がしたいね！

生徒は問題意識をもつことができていたのかな？

生徒と共に据える「学びのテーマ」を軸にして、「考えたい」「語りたい」「聴きたい」を生み出す授業にしよう！

- 「学びのテーマ」を据える導入場面での発問の工夫（手だて①）
- 生徒の思いや考えを集約するためのICTの利活用（手だて②）

## 全員の問題意識から据える学びのテーマ ～ICTを活用して～

主題名 「友情とは何だろう」 内容項目：B 友情、信頼  
教材名 「親友」（「きみがいちばんひかるとき」1年 光村図書）

T：みんなにとっての友達って？

主題に関わる現在の考えを明確にする発問をする（手だて①）

いなきゃだめ  
かけがえのない

T：一人一人の考えを見ていこう

全員の現在の考えを、クラウドを利用した付箋ツールで確認する場を設ける（手だて②）

no image

T：印象は？

「大切な人」が多かったよ

T：では、友達のことって大切にしている？

共有された考えから、自分の道徳的実践を見つめ直すための発問をする（手だて①）

えっと…そう言われると…

【学びのテーマ】  
改めて「友達を大切にする」って  
どういうことか考えていこう

この場面で、生徒は「えっと…」とつぶやいています。教師が明確な意図をもって手だてを行ったことで、生徒が立ち止まり自分を見つめ直すことにつながっていますね。



## 研究を通してH先生が得たこと

no image

生徒全員の考えから学びのテーマを位置付けたいと願い、導入においてどのような発問をすればよいかを考えるようになりました。本時では、導入の場面で生徒が問題意識をもつことができたことで、これまでの経験を振り返り、これからの人間としての生き方について語る姿につながったように思います。

# 内容項目

## 文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編」

小学校第1学年及び第2学年 (19)	小学校第3学年及び第4学年 (20)	小学校第5学年及び第6学年 (22)	中学校 (22)
<b>A 主として自分自身に関すること</b> (1) よいことと悪いことの違いをし、よいと思うことを進んで行うこと。 (2) 返事は素直に認め、正直に明るく生活すること。 (3) 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、物がまわりの生活を送ること。 (4) 自分の特徴に気付くこと。 (5) 自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。 (6) うそをついたりごまかしをしらないで、素直に伸び伸びと生活すること。	<b>A 主として自分自身に関すること</b> (1) 正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。 (2) 返事は素直に認め、正直に明るく生活すること。 (3) 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、物がまわりの生活を送ること。 (4) 自分の特徴に気付くこと。 (5) 自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。 (6) うそをついたりごまかしをしらないで、素直に伸び伸びと生活すること。	<b>A 主として自分自身に関すること</b> (1) 自由を大切に、自律的に判断し、責任のある行動をすること。 (2) 誠実に、明るく生活すること。 (3) 安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、物がまわりの生活を送ること。 (4) 自分の特徴を知り、短所を改善すること。 (5) より高い目標を設定し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて成長すること。 (6) 真実を大切に、物事を深く知り、新しいものを生み出すこと。	<b>A 主として自分自身に関すること</b> (1) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。 (2) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、健康を守り積極的に心掛けること。 (3) 自己を見つめ、自己の向上を期すとともに、個性を伸ばして充実した生活を追求すること。 (4) より高い目標を設定し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて成長すること。 (5) 真実を大切に、真理を探究して新しいものを生み出すこと。
<b>B 主として人との関わりに関すること</b> (6) 身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。 (7) 家族など日頃世話になっている人々に感謝すること。 (8) 礼儀の大切さを知り、誰に対しても敬意を払うこと。 (9) 友達と仲よくし、助け合うこと。	<b>B 主として人との関わりに関すること</b> (6) 相手のことを思いやり、進んで親切にすること。 (7) 家族など生活を支えてくれている人々の生活の大切さを感謝し、敬意を払うこと。 (8) 礼儀の大切さを知り、誰に対しても敬意を払うこと。 (9) 友達と仲よくし、助け合うこと。	<b>B 主として人との関わりに関すること</b> (6) 思いやりの心をもって人と接することにも、家族などとの支えや多くの人の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を培うこと。 (7) 礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること。 (8) 友情の芽を伸ばし、心から信頼できる友達をもち、互いに加まわり、高め合うことにも、異性についても理解を深め、初めや緊張も最終的には人間関係を築いていくこと。 (9) 自分の考えや意見を相手に伝えることにも、それを受け取り、自分の立場や意見を尊重し、互いの立場や意見を尊重し、互いに高め合っていくこと。	<b>B 主として人との関わりに関すること</b> (6) 思いやりの心をもって人と接することにも、家族などとの支えや多くの人の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を培うこと。 (7) 礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること。 (8) 友情の芽を伸ばし、心から信頼できる友達をもち、互いに加まわり、高め合うことにも、異性についても理解を深め、初めや緊張も最終的には人間関係を築いていくこと。 (9) 自分の考えや意見を相手に伝えることにも、それを受け取り、自分の立場や意見を尊重し、互いの立場や意見を尊重し、互いに高め合っていくこと。
<b>C 主として集団や社会との関わりに関すること</b> (10) 約束やまじりや迷惑を相手に伝えることにも、謙虚な心をもって、互いから互いに敬意を払うこと。	<b>C 主として集団や社会との関わりに関すること</b> (10) 約束やまじりや迷惑を相手に伝えることにも、謙虚な心をもって、互いから互いに敬意を払うこと。	<b>C 主として集団や社会との関わりに関すること</b> (10) 約束やまじりや迷惑を相手に伝えることにも、謙虚な心をもって、互いから互いに敬意を払うこと。	<b>C 主として集団や社会との関わりに関すること</b> (10) 約束やまじりや迷惑を相手に伝えることにも、謙虚な心をもって、互いから互いに敬意を払うこと。
<b>D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること</b> (11) 命の尊厳を大切にする。	<b>D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること</b> (11) 命の尊厳を大切にする。	<b>D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること</b> (11) 命の尊厳を大切にする。	<b>D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること</b> (11) 命の尊厳を大切にする。
<b>規則の尊重</b> (11) 約束やまじりや迷惑を相手に伝えることにも、謙虚な心をもって、互いから互いに敬意を払うこと。	<b>規則の尊重</b> (11) 約束やまじりや迷惑を相手に伝えることにも、謙虚な心をもって、互いから互いに敬意を払うこと。	<b>規則の尊重</b> (11) 約束やまじりや迷惑を相手に伝えることにも、謙虚な心をもって、互いから互いに敬意を払うこと。	<b>規則の尊重</b> (11) 約束やまじりや迷惑を相手に伝えることにも、謙虚な心をもって、互いから互いに敬意を払うこと。
<b>公正、公平、社会正義</b> (12) 誰に対しても分け隔てせず、公正、公平な態度で接すること。	<b>公正、公平、社会正義</b> (12) 誰に対しても分け隔てせず、公正、公平な態度で接すること。	<b>公正、公平、社会正義</b> (12) 誰に対しても分け隔てせず、公正、公平な態度で接すること。	<b>公正、公平、社会正義</b> (12) 誰に対しても分け隔てせず、公正、公平な態度で接すること。
<b>勤労、公共の精神</b> (13) 働くことのできることを知り、みんなのために働くこと。	<b>勤労、公共の精神</b> (13) 働くことのできることを知り、みんなのために働くこと。	<b>勤労、公共の精神</b> (13) 働くことのできることを知り、みんなのために働くこと。	<b>勤労、公共の精神</b> (13) 働くことのできることを知り、みんなのために働くこと。
<b>家族愛</b> (14) 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つこと。	<b>家族愛</b> (14) 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つこと。	<b>家族愛</b> (14) 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つこと。	<b>家族愛</b> (14) 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つこと。
<b>家庭生活の充実</b> (15) 先生や学校の人々を敬愛し、みんなが協力し合って美しい学校や学校をつくること。	<b>家庭生活の充実</b> (15) 先生や学校の人々を敬愛し、みんなが協力し合って美しい学校や学校をつくること。	<b>家庭生活の充実</b> (15) 先生や学校の人々を敬愛し、みんなが協力し合って美しい学校や学校をつくること。	<b>家庭生活の充実</b> (15) 先生や学校の人々を敬愛し、みんなが協力し合って美しい学校や学校をつくること。
<b>伝統と文化の尊重</b> (16) 我が国や郷土の伝統と文化を大切に、誇りや郷土を愛する心をもつこと。	<b>伝統と文化の尊重</b> (16) 我が国や郷土の伝統と文化を大切に、誇りや郷土を愛する心をもつこと。	<b>伝統と文化の尊重</b> (16) 我が国や郷土の伝統と文化を大切に、誇りや郷土を愛する心をもつこと。	<b>伝統と文化の尊重</b> (16) 我が国や郷土の伝統と文化を大切に、誇りや郷土を愛する心をもつこと。
<b>国際理解、国際貢献</b> (17) 他国の人々や文化に親しみ、関心をもつこと。	<b>国際理解、国際貢献</b> (17) 他国の人々や文化に親しみ、関心をもつこと。	<b>国際理解、国際貢献</b> (17) 他国の人々や文化に親しみ、関心をもつこと。	<b>国際理解、国際貢献</b> (17) 他国の人々や文化に親しみ、関心をもつこと。
<b>D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること</b> (18) 命の尊厳を大切にする。	<b>D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること</b> (18) 命の尊厳を大切にする。	<b>D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること</b> (18) 命の尊厳を大切にする。	<b>D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること</b> (18) 命の尊厳を大切にする。
<b>生命の尊厳</b> (19) 命の尊厳を大切にする。	<b>生命の尊厳</b> (19) 命の尊厳を大切にする。	<b>生命の尊厳</b> (19) 命の尊厳を大切にする。	<b>生命の尊厳</b> (19) 命の尊厳を大切にする。
<b>自然愛護</b> (20) 美しいものや気高いものを感じ、自然環境を大切にする。	<b>自然愛護</b> (20) 美しいものや気高いものを感じ、自然環境を大切にする。	<b>自然愛護</b> (20) 美しいものや気高いものを感じ、自然環境を大切にする。	<b>自然愛護</b> (20) 美しいものや気高いものを感じ、自然環境を大切にする。
<b>感動、異教の念</b> (21) 美しいものや気高いものを感じ、自然環境を大切にする。	<b>感動、異教の念</b> (21) 美しいものや気高いものを感じ、自然環境を大切にする。	<b>感動、異教の念</b> (21) 美しいものや気高いものを感じ、自然環境を大切にする。	<b>感動、異教の念</b> (21) 美しいものや気高いものを感じ、自然環境を大切にする。
<b>よりよく生きる喜び</b> (22) よりよく生きる喜び。	<b>よりよく生きる喜び</b> (22) よりよく生きる喜び。	<b>よりよく生きる喜び</b> (22) よりよく生きる喜び。	<b>よりよく生きる喜び</b> (22) よりよく生きる喜び。

no image

共に声をきく

校庭の片隅で二人は松の木を見上げています。風が吹いて松ぼっくりが落ちてくるのをじっと待っているのです。空には雲が流れ、風の声、木々の声がきこえます。それは声なき二人だけの対話。

## 対話を

長野県教育委員会

学校・家庭・地域で心の教育のあり方や連携について考え合う「豊かな心を育む教育フォーラム」を開催しています。

長野県道徳教育推進委員会

講演会や分科会での話し合いを通して、学校・家庭生活、地域社会における道徳教育の推進を図ります。

文部科学省令和3年度全国学力・学習状況調査[児童・生徒質問紙]「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか？」の項目について、肯定的な回答の割合が年々高まってきています。「道徳 楽しいよ」という長野県の子供たちの声がきこえてくるようです。各校の道徳教育推進教師を中心とした先生方の日々の授業改善の賜物と受け止めております。

(長野県教育委員会事務局学びの改革支援課)